

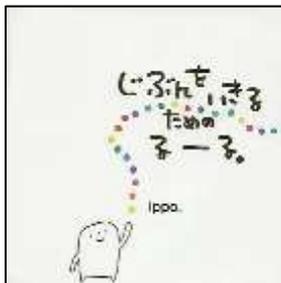


自分をいきるためのルール

性の多様性についての理解を広げるため、LGBTQ の当事者の方に来てもらい、子どもたちに特別授業をしていただいています。一昨年度、昨年度と続けて教職員研修を行い、児童には昨年度から 2 学年ずつ行っています。今年も、3 年生と 6 年生で実施しました。「LGBTQ 等の多様性の正しい理解と支援」は本校の教育目標の重点課題の1つです。



女の子として生まれた自分の身体に違和感を持ち、女の子らしくふるまうことや女の子らしい恰好をすることに生きづらさを感じてきたヒカルさん。12 月 5 日(火)5 校時、多目的室に集まった 6 年生に対して、まず、多様性の象徴であるレインボーフラッグの意味や LGBTQ について説明をしてくださいました。続いて、多数派と少数派について考えるゲームをしました。「ドラえものの道具、どこでもドアとタイムマシンのどちらが欲しい?」「犬と猫、どっちが好き?」「休日の過ごし方は、外で遊ぶ派、家でのおんびりする派?」など。各質問に子どもたちが1つを選択し多数派になったり、少数派になったり。多数派、少数派で一喜一憂するところですが、中には全部多数派だったと言う子が数人いました。でも、多数派ばかりの人は少数派。誰もが少数派になり得る、そんな話をしながら、2つから選ぶなんてできないというお話に。



例えば、「犬と猫」の問いは、二者択一なので犬と猫の中からどちらかを無理に選んだ人もいたかもしれません。そうヒカルさんに言われて子どもたちは、「私はパンダが好き」「ぼくはウサギが好き」と自分の本当の好みを答えていきます。自分にぴったりの感じというのは、2つからは選べないこともあって、実はこのことは性についても言えることです。「男か女か」のどちらかから1つには決められるものではなく、もっともっと多様なのですとヒカルさん。小さい頃、どちらかに決めなくてはならない現実にはヒカルさんは苦しみ続けました。人の性は虹の色のように多様で、しかも色と色の境もくっきりではなくグラデーションだと言います。苦しみ続けたヒカルさんは、やがて、自分らしく生きるためにある決断をします。

お話の最後に、『じぶんをいきるためのルール』という絵本を読んでくださいました。子どもたちは、真剣なまなざしで話を聞いていました。しっかり考えた質問や感想もたくさん出ました。

ちなみに、性別違和を抱えている人は 11 人に 1 人、日本の人口比では 8.9% だそうです。これは左利きや AB 型の血液型の割合に近いそうです。

ソウゾウリョクゲーム



「ある子が泣いている。どうしたのかな?」そんなシチュエーションを、理由カードに書かれた言葉から想像してみるゲームです。生駒市教育委員会のキャリア教育プランナー尾崎さんによる出前授業です。多目的室に集まった 1 年生の子どもたち一人ひとりに配られたのは、「理由カード」。書かれている言葉は「机」「公園」「時計」「マスク」「トイレ」「月」な



ど10種類。どうして泣いているのか分からないけれど、これらの言葉から想像を膨らませて「ひょっとしたらこんなことが理由なのかもしれない。」と考える。「机の角にぶつかって痛くて泣いている。」「公園で遊ぶ子がなくて泣いている。」「友達と約束する時間に遅れてしまったので会えなくなって泣いている。」「月が追いかけてくるみたいに感じて怖くて泣いている。」など子どもたちは、カード

の言葉から想像力を膨らませ、時にはストーリー仕立てで状況を説明します。

次に出された問題が実は本題でした。「図書の本を選んでいたら後ろから押された。どうしたのかな？」学級の中でもしばしば起こりうる状況です。ゲームを通して、押した相手側の状況を想像し慮ってポジティブに捉えることができるようになると、生きづらさはずいぶん軽減され元気になれると尾崎さん。「押すなよ！」とけんか腰で迫る前に、相手にはこちらにはわからない事情があるかもしれないと想像して、「どうしたの？」とまずは訊ねられるようになってほしい。そんな願いがこめられたゲームなのでした。帰りの会などの10分ほどの時間を使って、どの学年でも、ときおりソウゾウリョクゲームを繰り返しやるのもいいかもしれません。

ヴァイオリンコンサート



12月6日(水)、鹿ノ台在住のヴァイオリニスト齊藤清さん(関西フィルハーモニー管弦楽団員)によるコンサートを、6年生対象に開催しました。生駒市のアウトリーチ事業で実現した企画で、今年で3年目です。鹿ノ台在住の今井さんのピアノとともに、計6曲を演奏して頂きました。



子どもの感想から

授業で見た動画と目の前の演奏だと違い過ぎました。目の前で演奏してもらったきれいで、強弱などピアノとヴァイオリンが一体化していて感動しました。

チャルダッシュが特に印象に残っています。テンポも速くて音の出すのも速かったから難しそうなのに、すごく軽々ときれいな音でひいていてすごいなと思いました。

演奏後の質問、感想で、「ピアノとヴァイオリンのタイミングはどうとっているのですか？」と質問した子がいました。テンポとアイコンタクトが大事と言った後で、「相手のことを思いやる愛情ですね。その人の立場に立って、考えて、思いやること。自分を出しすぎず、合わせていく気持ちです。」と答えてくださいました。演奏はもちろん、曲の解説や子どもたちの質問への回答、人柄に奥深い魅力を感じました。



鹿ノ台小学校 @lkoma_shika_e2

鹿ノ台の森林環境保全に努めておられる地域ボランティアECOKA 委員会の明さんから校区に多い緑をどう管理しているのか教わった5年生。鹿ノ台北にある森林を訪れて現場を見学するとともに栽培しておられるシタケの収穫もさせてもらいました。猛暑の影響で収穫数は少なめですが大型肉厚のシタケも。

鹿ノ台小学校 @lkoma_shika_e2

3年生で外国語活動の公開授業をしました。生駒市教育振興会外国語部会の研修活動で市内の各校の外国語担当教員が集まりました。

"What do you want?"
"Two stars please."のようなやり取りをしてペアの子の好きな色、形をクリスマスツリーの図に飾ってカードを作りました。